

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292500061		
法人名	株式会社feel		
事業所名	小規模多機能「和」		
所在地	千葉県流山市名都借1068-2		
自己評価作成日	平成26年2月10日	市町村評価書受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPO共生
所在地	千葉県柏市光ヶ丘団地3-3-404
訪問調査日	平成26年3月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ☆ ゆとりを持った声かけや介助を行い、ご自分で出来ることは出来るだけやって頂けるように心がけ、穏やかに過ごして頂けるように取り組んでいます。 ☆ お一人お一人の心身の状態に気を配り、ご利用者が自宅にいる感覚で過ごせるように配慮しています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ☆ 利用者や家族への傾聴、利用者への寄り添い、介護計画の協働など、利用者調査結果でも100%近い支持率が出ています。 ☆ デイサービス、グループホーム、居宅介護支援などとともに運営されている事業所ですので、わずかな利用者の変化や要望にも、ベテラン職員が対応できる体制が整っています。 ☆ 各事業所間の車両管理と連携により、外出を含む利用者移動がスムーズに行えています。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、案して暮らせている。 (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	特筆すべき成果
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月0サービス会議等により全職員に伝え、共有を図っている。	X'mas、研修を含め、事業所理念を日常的に共有するため、サービス会議等も利用し実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	買い物や散歩など、出来るだけ近隣に出かける機会を持ち、挨拶を交わすよう、努めている。自治会に入っており、地域の情報を得ている。	自治会への入会等により、徐々に拡大させているが、限界が感じられることもある。然し隣接設置のグループホームとの相乗的効果を知って頂くチラシを職員で作成、ポスティングしている。地域性、事業所の立地条件などもあり、自然体での交流が期待される。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩、買物など近隣の方々に接する機会を持ち、職員のご利用者に接する姿を直接見て頂けるよう配慮している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議開催時に報告を行い、意見やアドバイスを頂いている。そこで得た意見を基にサービスの向上に活かすよう努めている。	隣接して設置のグループホームとの同日開催を試みている。ほぼ隔月に1回の開催を計画、実践している。然し地域あるいは出席者からの意見等は少ない。年間6回開催の実績および社会資源として地域活動を職員手作りのピラで行うなど、県内的には外部評価の緩和対象といえる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者や包括支援センター等に実情を伝え、協力関係が維持できるよう努めている。	設置時の建物規模は広い歩廊幅員、緊急時避難にも安全が確保されている。また相談員からの指導や助言もあり、ご本人あるいは家族からの要求には可能なかぎり対応する努力を重ねている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	主治医と相談し緊急止むを得ない状況を除き身体拘束を行っていない。また、サービス会議等のなかで確認し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	さらに、日常的なコミュニケーションの中で、①職員自らの言語や振舞いの癖に気付くこと、②ちょっと待ってね、など、結果、後回しにつながる対応を戒めるよう、【言語・態度による拘束】について正しい認識を持つよう徹底を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	特筆すべき成果
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	サービス会議等で確認し、実行している。また、家族様と気軽に連絡、相談出来る様努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	代表者、管理者、ケアマネジャーなどが持つ情報等を全職員に伝達し、また、研修する機会を持つ様にしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書にて説明を行い、サービス開始後も電話や送迎時に、不安や疑問点がないかなど確認している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	終日、電話での相談等を受け入れている事を説明し、サービス会議等で報告、確認をしている。	利用者調査によれば、「利用者・家族からの意見の反映に関する自由記述には83%の支持がある。また希望への理解【傾聴、寄り添い】に対しては83%の支持となっている。また介護計画作成への家族協働には100%の支持がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、サービス会議を設け、職員の意見や提案を聞き、運営に反映するよう努めている。	サービス会議及び毎月のミーティング等、あるいは個別の対応等で具体的意見、提案等を聴取している。 利用者調査でも【職員は良く対応している】と、83%の支持を得ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別に相談できる環境を作る等、職場環境の整備に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	特筆すべき成果
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に勉強会を開いている。また、研修案内などを職員に通知し、参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関係機関や同業者と交流する機会を持ち、勉強会等に参加できるよう連絡を取り合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	特筆すべき成果
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学、相談、契約時に出来るだけ聞き取りし、不安や要望等を全職員で共有し、ご利用者が安心してサービスを受けられるよう、努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記同様、家族様の困っている事、要望等を聞き取り、信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	契約時に本人、家族から聞き取り、提案し、計画作成担当などと綿密な打ち合わせを行い、必要なサービスの見極めが行われるよう、努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自宅に居るような、気持ちで過ごして頂けるよう配慮し、リラックス出来る雰囲気作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連絡は密に行い、ご本人の心身の状態や環境の変化等、互いに共有できるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	環境の変化による、心身への悪影響が生じない様、馴染みの関係が継続できるような支援に努めている。	利用者はすでに【ご近所】の方が多いので、比較的落ち着いて外出することが多い。訪問頂く来客も事業所にすでに馴染んだ方もおられ、地域密着型事業の特色が発揮されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	特筆すべき成果
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の生活歴、性格等を職員間で共有し、ご利用者同士の関わりや支え合える雰囲気作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	通常から連絡を密にし、サービス終了後も、ご家族が気軽に訪ねて来られるような環境作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	特筆すべき成果
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	契約時はもちろん、サービス開始後もご意向の確認を継続して行い、ご本人の意思を尊重し、本人本位のサービスが提供できるよう努めている。	契約時にケアマネジャーが訪問して、利用者の意向と家族の要望等も聞きながらアセスメントを作成している。また、送迎時には添乗する介護職員が家族に施設での状況を報告し、家族からは自宅での状況、新たな要望等を受け入れる機会としている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、家族、前担当者、サービス事業者等から情報を頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人、家族、前担当者、サービス事業者等から情報を頂き、サービス開始後も継続して、状況や状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	知り得た情報をサービス会議やカンファレンスなどで共有、検討し、サービス計画を作成している。	月1回のサービス会議や必要に応じたカンファレンス等により、常に情報を共有しながら行ない、定期的モニタリングで本人と家族の意向を反映し見直している。介護保険制度の根幹を担うケアプラン共有度の利用者調査結果では家族から100%の支持がある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に記入し、ご家族への報告、職員間で情報の共有に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況や状態に合わせたサービスが提供できるよう、また既存のサービスに捉われない柔軟な姿勢を取っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	特筆すべき成果	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員や自治会などと情報交換を行い、事故を未然に防ぎ、安全で豊かに過ごせるよう支援している。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医、かかりつけ医と出来るだけ連携し、受診時に立ち会う機会を持ち、受診がスムーズで適切に行えるよう、支援している。	主治医やかかりつけ医と連携を図るため、ケアマネジャーは利用者の通院時等に同行して医師と直接話す機会を積極的に持つようにしている。そこでの医師の指示を受け日常のケアに活かしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	皮膚の状態を始め、全身の状態等で気づきがあった時は、直接の観察や報告を徹底し、医師や看護師から指示を受けられるようにしている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療相談員などと情報交換を行い、入院時は主治医や看護師と連絡が取り易い関係を作っている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時等にご本人や家族の希望等を把握、確認する様に努めている。また、終末期に近い状況が発生した時期に出来る範囲で再確認を行っている。	契約時に本人や家族の要望を把握し、終末期におけるケアの範囲を説明している。施設での対応が困難な場合は、同一法人が運営する居宅支援事業所のケアマネジャーとの連携等、可能な限りの支援を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	主治医の確認、搬送先の確認を行い、初期対応の確認は随時、行っている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施し、安全な避難が出来るよう、心がけている。	防災マニュアルも作成されており、年2回の防災訓練を行っている。その内、1回は消防署の職員にも来て戴き、地域と連携を図りながら実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	特筆すべき成果
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人お一人を尊重し、常に埃やプライバシーを損ねない対応をしている。	プライバシーマニュアルも作成されており、職員はいつでも見られる環境に置いている。法人全体で行なっている月1回の研修会においても常に確認し合い、プライバシーを損ねない確認をしている。パート社員にも同様の周知を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の意思を尊重する事に心がけ、自己決定が出来るように対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方のペースに合わせる努力をし、その日の過ごし方も、希望に添った支援を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容師によるカットサービスや入浴後の整髪等、ご本人の希望に合わせた支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の献立をご自分で書いたり、手作りおやつを考えたり、食事を楽しめるよう、工夫している。	利用者にとって食事は楽しみのひとつであるので、利用者自身にメニューを考えて頂く、献立表を書いて頂くなどしている。また食事づくりの準備段階から楽しく、食後の片づけなど食事を楽しめる工夫をし、外食は月に2回程度行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量の確認、記録、報告を行っている。水分摂取にも気を配り、気軽にお茶等が飲めるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	特筆すべき成果
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝のうがい、食後の歯磨きなど、一人ひとりの確認と支援を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄能力、間隔に応じた誘導、声掛け、介助を行っている。	一人一人の排泄能力や排泄パターンは違っているので、排泄パターン等を記録してスムーズに行えるような声掛けをして習慣化し自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や繊維質の多い物をおやつに取り入れたり、食前体操を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人や家族の要望に合わせ、必要な回数、時間を相談して決めている。	入浴は、ご本人や家族の希望を聞いて行っている。気分が乗らなくて入りたくない場合は時間を置いて声をかけたり、また、別の日に振り替えたりなど、ご本人に添う支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や睡眠時間の確保に配慮し、休息や昼寝の時間を振り入れている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬方法やお薬情報を家族より頂き、服薬支援や症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人や家族から、趣味や得意な事、嗜好品、生活歴などを聞き取り、サービスに取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	特筆すべき成果	
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人、家族から要望や意向を聞き取り、外出の支援を行っている。	外にある駐車場にベンチを出して外気を楽しむ場を設け、そこで歌やゲームを楽しんで頂くなどしている。また、利用者の希望に応じて近隣の公園への散歩、買物に行ったりなど、外気温や天候を見ながらの支援をしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は家族が行っている方が多いが、買い物時はご家族に確認、了解を頂き、所持や見極めの支援を行っている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族と連携し、ご本人から希望があった場合は支援を行っている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度、光、音などには細心の注意を払い、装飾物や花等で季節を感じてもらえるよう配慮している。	施設は天井も高く開放感があり、木目調の柱で落ち着いた雰囲気である。窓も大きく自然な明るさが取込めるようになっている。共用空間の窓際に足湯の設備があり、季節の装飾品や花など、居心地の良い空間を楽しんで頂けるよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個室やソファ、炬燵のスペースがあり、くつろいで過ごせる場所を確保している。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	泊りの際は、自宅から馴染みの物や好きな物を持って来て過ごせるようにしている。	宿泊用居室はフローリングでベッドを利用する部屋や畳に布団を敷く部屋もあり、利用者ご自身の希望で選択出来るようにしている。泊まりの際は枕やラジオ等使い慣れた物などを持込み快適に過せる工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり	手すりの設置、杖や歩行器、車椅子など、個人に合わせた移動手段にしている。また、居室はベットや布団など生活習慣、希望に合わせて用意する様心がけている。	手すり・杖・歩行器・車イス等、利用者個々に合わせた利用システムとなっている。本年度はトイレにポジションバーを設置する等、利用者に対し常に安全な環境を提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	特筆すべき成果

(別紙4(2))

目標達成計画

事業所名:小規模多機能「和」

(今回の評価を元に次年度への目標を記入して下さい。)

作成日:

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないように、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1					ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

(注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。